

エッセイスト 近藤 節夫



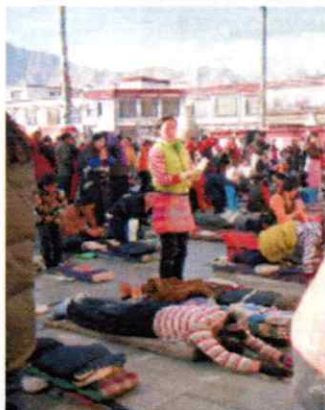
チベット唯一の世界文化遺産「ポタラ宮殿」は、中国チベット自治区の首府ラサの広い中央広場の背後にどっしり構え、チベット仏教が周囲を睥睨するかのような威厳のある世界に誇る大宮殿である。ここはダライ・ラマ14世がインドへ亡命する1959年まで、チベット仏教及びチベット在来政権の中心だった。ラサには、ポタラ宮殿の他にも近くの大昭寺とノル布林カ(宝の庭)が、その後歴史的遺跡群として追加登録された。

遙か昔少年雑誌でこの壮大な宮殿の写真を初めて見た時、とても言葉には言い表せない圧倒的なスケールと迫力の宮殿には、感銘とともに少なからずショックを受けた。爾來夢叶い現地を訪れるまで長い間ポタラ宮殿は幻となって頭の片隅に残っていた。

サンスクリット語で「聖地」を意味する「ポタラ」宮殿は、世界文化遺産の中で最も高い海拔3650mの高地に、7世紀半ばに完成した。丘の上に13階



建て、高さ117m、横幅約400m、建築面積にして1万3千㎡という、単体としては世界でも最大級の建築物で遙か遠方より望むその雄姿は神々しいまでである。正門から階段



を上り宮殿内の部屋や、ダライ・ラマ14世の執務室などラマ一族一統の事務所等々施設を見学し、見晴らしの良い展望台からラサ市内を見下ろすと、広場にはチベット仏教の修行である、全身を地に伏せる「五体投地」をしている人々の姿が蟻のように見える。宮殿内部は数多くの壁画、霊塔、彫刻、塑像を持つ



最高地タングラ峠(海拔5072m)を通過



チベット鉄道列車内のチベット人母子

チベット芸術の宝庫でもある。

標高が高く酸素がやや希薄なためにチベット滞在中にしばしば旅行者が倒れることがある。実際海拔3千m以上のラサ周辺に滞在する彼らの血圧と脈拍数は異常に高まる。

チベットの南隣はすぐヒマラヤで、中国の主要都市からかなり遠く、ラサを訪れるには空路が一番手っ取り早い。だが、毛沢東の声かけで計画されたチベット青蔵鉄道が、2006年に全線開通し、アプローチは大分楽しく容易なものになった。海拔2275mの青海省西寧を發ちラサへの道のりは、鉄道の世界最高地点タングル峠5072m(停車最高駅は5068m)を通り、世界一長い凍土トンネル1686mを通過し、凍土上の11.7kmの世界最長鉄橋を渡り、海拔4000m以上・全長1956km(バンコック・シンガポール間走行のマレー鉄道に匹敵)の高原を1昼夜近くかけて走破する。このわくわくする列車でチベット参りをすれば一層チベットの魅力が感じ取れる。車窓から眺める広大な高原には、思わず列車から降りてみたくなるような珍しく魅力的な光景が次々と現れ、兎や山羊、カモシカらの他に、時には珍しく狼の群れを目にすることもある。



チベット高原の野生の牛馬

この高山鉄道開通により、それまで気候も厳しく、都市から離れ、天空の孤島とも言われたチベットが一気に身近になり、私たちとは異なるチベット民族特有の文化、習慣、風俗、宗教観を容易に感じ取ることができるようになった。